

同窓会の現況

幹事長 森 昭彦

東日本大震災とそれに伴う原子力発電所の事故で被災された方々に心よりお見舞いを申し上げますと共に、亡くなられた方のご冥福をお祈りいたします。

同窓会名簿によれば、岩手、宮城、福島のお住まいの方は二〇名ほど居られます。お住まいの地域の被災状況の詳細はわかりませんが、ご無事であることを祈るのみです。

また、同窓生の中には、被災地の復旧や、原発への対処、そのほか派生する様々な問題に日夜立ち向かわれている方も数多くいらっしゃると思います。そのような方々に対しましては、心から声援をお送りいたします。

さて、今年も一一五名の新卒

業生を迎え、七月二二日現在の現存会員数は九八二八名となりました。このうち、住所が判明している方は七一四名で、判明率は七二%となっています。

今年、十一月に同窓生懇親会を開催いたします。詳しくは別紙をご覧ください。若い方々にも、ぜひ積極的に参加していただきたいと思っております。

同窓会の最大の仕事は同窓生名簿の維持管理です。本同窓会ではほぼ五年に一度名簿を発行し、それに合わせて五年分の会費を納めていただいております。次回の名簿発行年は来年二〇一二年(平成二四年)ですが、今年はそのための調査を行います。

この会報に同封されている調査票にご記入の上、必ずご返信下さるようお願いいたします。

また、振替用紙が同封されておりませんが、これで、二〇一二年から二〇一六年までの五年分の会費をお納め下さい。ただし、二〇〇三年以降の若い卒業生と一九四四年(昭和一九年)以前のご高齢の方はお納めいただく必要があります。名簿は会費をお納めいただいた方にさし上げております。

なお、会費納入につきまして、昨年二〇〇七〜二〇一一年分の会費が未納の方に納入のお願いをいたし、多くの方から納入していただきましたが、今回の会費は二〇一二年〜二〇一六年までの会費ですので、お間違えないようにお願いいたします。

「下馬校舎見学会」参加者募集

詳細は別紙をご覧ください、同封の葉書でお申し込みください。

日時：10月8日(土) 午前10時集合(荒天以外の雨天代行)

集合場所：放送大学学習センター正門前

交通：東急バス

渋32系統 渋谷⇄野沢龍雲寺(循環)

渋34系統 渋谷⇄東京医療センター

いずれも「放送大学学習センター」下車 すぐ前

参加費：無料

見学コース：別紙をご覧ください。

申し込み締め切り：平成23年9月30日(必着)

「懇親会2011」のご案内

同窓会懇親会を下記のとおり開催しますので、皆様ふるってご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。詳細は別紙をご覧ください、同封の葉書でお申し込みください。

日時：平成23年11月19日(土) 12:00～14:30

会場：原宿・東郷記念館1階

(助水交会「クラブ水交」)

渋谷区神宮前1-5-3

電話：03-3403-1491

最寄り駅：JR山手線「原宿」駅、

東京メトロ千代田線・副都心線

「明治神宮前(原宿)」駅

いずれも駅から徒歩5分

会費：6,000円

申し込み締め切り：平成23年10月31日(必着)



副校長 藤田留三丸

東日本大震災で被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

附属小学校の近況をお知らせいたします。

【先生方の異動】

☆お送りした先生

▽内田雄三先生

元気で明るいキャラクターが人気で、子どもたちには「ウッチー」の愛称で慕われました。子どもの中に飛び込み、子どもと共に生活を作る学級経営は若手の先生方の模範となっていました。また、体育科教育の専門家としても活躍。理論と実践を結びつけた多数の優れた実践を残されました。本校在職二〇年を超すベテランの先生が去られるのは寂しい限りです。未来の教師を育てるべく新たな職場で教鞭をとることになり、四月から、大学へ転出なさいました。

ご活躍をお祈りしています。

▽越後佳宏先生

本校には五年間勤務されましたが、東京都の公立小学校に赴任なさいました。誠実なお人柄で慕われ、いつも楽しそうに子どもたちと交流している姿が印象に残ります。校内では生活実践部長として子どもの学校生活全般において配慮の行き届いた指導をして下さいました。専門教科は算数。現職研修会や研究発表会では、本校算数部の代表として大活躍でした。新天地でのご活躍をお祈りしています。

▽齊藤和貴先生

東京学芸大学附属小金井小学校へ配置換えです。一年間の人事交流でしたが、豊富な教育経験を世田谷の子どもたちの生活に反映させて下さいました。研究教科は生活・総合です。「はじめに子どもありき」を軸にした実践を大切にしていました。そ

れは子どもとの関係づくりや授業のスタイルに表われ、私たち教員仲間にも良い刺激を与えて下さいました。同じ附属の兄弟校としてこれからもよろしくお願ひします。

▽戸澤有紀子先生

四年間の在職中、本校の音楽教育に力を尽くして下さいました。ピアノがご専門で、全校児童の前でその腕前をご披露いただいたこともあります。校内では代表委員会の指導を担当し、子どもたちといっしょに全校集会の企画運営に携わりました。その指導ぶりは音楽の授業と同じ、とても熱いものでした。現在東京都の公立小学校にご勤務されています。きっと附属小学校同様に熱い指導を続けていることと思います。

▽齊藤祐一先生

爽やか、という言葉がぴったりの先生でした。子どもや保護者には常に笑顔で接し、誠実な対応は好感度が高かったです。学生時代は陸上の中距離ランナーとして活躍しました。時々、自宅から学校まで走って通勤していました。体育部に所属して、学校の体育活動の中心を担いました。運動会での総指揮者としての仕事ぶりは素晴らしかったです。今後はご自分の専門を深めるために、研究活動に専念なさいます。

▽田中義久先生

二年間、低学年の担任をして頂きました。現在は弘前大学に異動し、大学生を相手に教鞭を執っておられます。何事にもまじめに、そして全力で立ち向かう姿勢は子どもたちにとってもい



い影響を与えました。今後は専門の算数数学科教育と教員養成の分野でのご活躍をお祈りしています。

☆お迎えした先生

▽長坂裕哉先生

東京都公立小学校からの着任です。体育科教育がご専門です。学生時代はサッカー部。日本代表級の選手と同じチームだったそうです。本校とは縁が深く、毎夏の水泳スクールでは指導員として長年お手伝いしてくださいました。研究熱心で意欲溢れる方です。三年生の担任です。

▽永山香織先生

算数科教育を専門としており、研究実績の豊かな先生です。一年生の担任をされていますが、優しくおらかな印象で、子どもたちとのやりとりにも安心感が漂います。笑顔が絶えない学級の雰囲気は、とても楽しそうです。東京都公立小学校からの着任です。

▽幸阪創平先生

東京都の公立小学校からお迎えしました。道徳教育がご専門ですが、それ以外にもいろいろなおことに興味関心をお持ちです。



論より実践、良いと思うことには積極的に取り組む行動派です。五年生の担任として体当たりの毎日を送っています。

▽堀井孝彦先生

「ホリセン」が帰ってきました。東京学芸大学附属小金井小学校からの配置換えです。異なる歴史と伝統がある小金井小学校で、様々な経験を積んでこられました。その経験をもとに、新たな世小の創造に力を発揮してくれたいと思います。理科教育が専門です。五年生の担任で学年主任も務めます。

▽高須みどり先生

三年生の担任です。元気いっぱいの子どもたちと汗だくの日々を送っています。教員経験の中では初めての小学校担任ということ、慣れないことも多いのですが、持ち前のパワーを全開にして張り切っています。国語教育が専門です。

▽瀬川知孝先生

今年度学部を卒業したばかりのフレッシュマンです。学ぶ立場から教える立場に変わり、その違いに面食らったり戸惑ったりしていますが、「粘り強く」を信条に頑張っています。国語教

育が専門です。音楽が趣味で、ロックに傾倒し、ベースギターをこよなく愛する若者です。

今年も新しい力を得て、教職員合わせて約五〇名のスタッフで学校を運営しています。どうぞよろしく願っています。

素適な先輩、ありがとう

「創立一三五周年をお祝いする会」を三月三日全校朝会で行ないました。平成一六年度卒のバイオリニスト三浦文彰さんをゲストにお迎えし、お祝いの曲を演奏して頂きました。思わぬ贈り物に、子どもたちは大喜びでした。

※三浦さんは、二〇〇九年ハノーファー国際コンクールで優勝した世界的若手バイオリニストです。



今も昔も変わらないこと

平成八年卒 斎藤 永聖
同年卒 藤井 伸一郎

桜の季節が終わるとフジの花がいよいよ咲き始めます。日本の各地にも多くの藤棚があり、それらを見るときも附属小学校の良き思い出がよみがえります。今年も、附小の一つの象徴的存在でもあった藤棚は花を咲かせているのでしょうか。

私も二〇一〇年四月より株式会社JESTOを設立し、現在、十五名程の大学生を中心としたインターン生を含む総勢二十名程度で会社を運営しております。「インターネットを使って、日本をよりよくしよう。さらには、世界に向けてインパクトのある大きなことを成し遂げよう」という想いを胸に、独創性が高く、情熱を持ったメンバーが集まって設立されました。

当社では創業当時からインターネットを使った新規事業の創造、Webサイト制作、FacebookやTwitterなどの新しいメディアを使ったプロモーションやコンサルティングなどを手掛けております。

とりわけ、日本文化を多言語で海外に紹介するサイトの拡大に今は力を入れております。「日本通(にほんつう)」と掛けて「JAPANTWO」と名付けられました。外国人に日本に興味を持ってもらい、さらには実際に日本を訪れてもらおうとの想いで世界に向けて発信しております。

さて、附小での同級生同士で会社を創業するのも何か不思議な感じがしますが、やはり附小での経験が会社を設立する大きな契機になったのではないかと思います。

今も昔も変わらないこと。それは、既成概念にとらわれず、新しいことに挑戦することです。

附小時代、普段の授業から、自分たちで考え、行動するという力が養われていました。担任の先生から教科書に書いてあることを教えられるのではなく、常に自分たちで調べ、意見を交換し、友だちの前で発表するという授業によって、多くのことを吸収することができました。

普段、何気ないことでも「どうしてなのかな?」「なぜそうなるのかな?」といった疑問を持ち、それらを探求する精神は、附小からの賜物といえます。

それらは、仮説を考え、それが正しいかを実証する新規ビジネス・サービスを創造することと全く同じです。特に私どもは、インターネットを通じて世の中のない新しいサービスを提供するため、既成概念にとられないアイデアが求められます。附小で養われた力が、現在の仕事で発揮されているのです。

当社では、東日本大震災の未曾有の災害に対して、日本から世界に対して、自分達ができることをあらゆる形で実行してまいります。



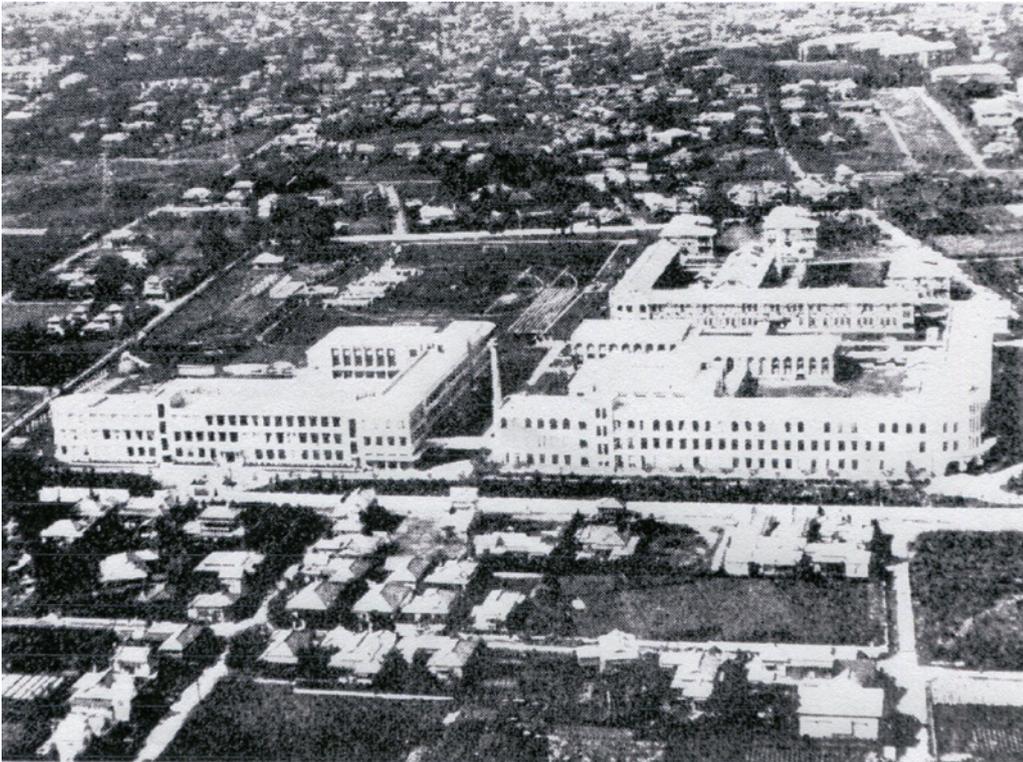
下馬校舎の今昔

母校、東京府青山師範学校附属小学校↓東京第一師範学校男子部附属小学校↓同国民学校↓東京学芸大学附属世田谷小学校は、昭和十一年（一九三六年）、師範学校とともに、青山校舎から、新装成った下馬校舎に移転し、昭和三十年、現在の深沢校舎に移転するまでの十九年間を過ごしました。

下馬の校舎は、昭和初期のパウハウスのデザイン運動の影響か、曲線と直線を巧みに組み合わせた、大変「モダン」な校舎でした。

今はほとんどそのまま「放送大学学習センター」として使われている母校と、附属高等学校が使用している元師範学校の校舎の今昔をご覧ください。

なお、両校舎とも、「個人の見学には応じられない」とのことなので、「下馬校舎見学会」を企画しました。詳しくは別紙の案内をご覧ください。同封の葉書でお申し込みください。



昭和11年に完成した下馬校舎の全景



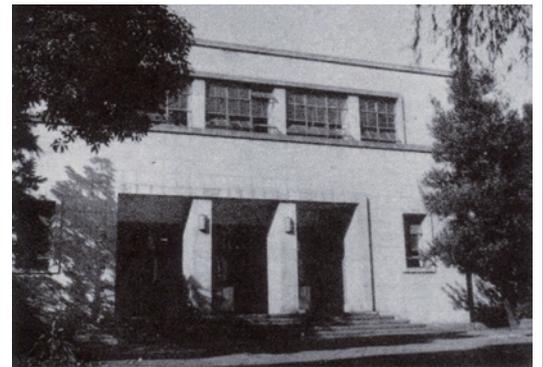
現附属高等学校の正面玄関



屋上から見る煙突。地震の被害で現在補修作業中



「紀元二千六百年記念碑」は健在



入学記念写真を撮った講堂の正面



体育館は昔とほとんど変わっていない



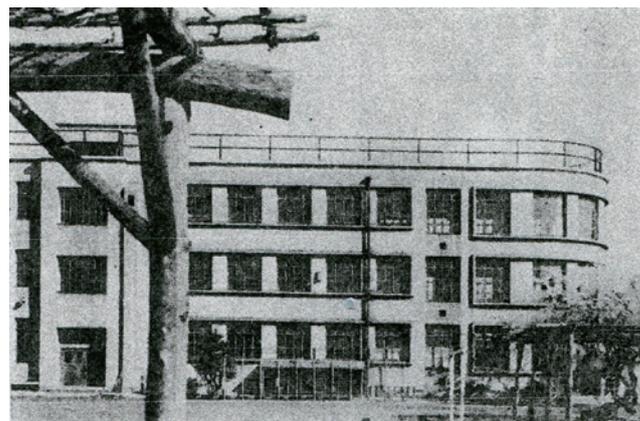
現在もほとんど変わっていない



総合機械から見た運動場と校舎の全景



総合機械から藤棚越しに見る校舎



南側は半円形のデザイン。
今は無残にも切り取られてしまった。残念至極。



シンメトリーのデザインが崩れてしまった現在の正門



立派な門柱、門灯、石段をシンメトリーに配した正門



「むすびの鐘」と「マジメ」の額が外された朝礼台の現在



「むすびの鐘」は
深沢校舎の玄関前に、
「マジメ」の額は校長室に
保管されている



教室が並ぶ廊下の雰囲気は今も変わらない

「貴方と歩めたことを誇りに思います」

教育の道に情熱を注ぎ、若い芽の育成に心を傾けてきた夫。学ぶことの大切さと楽しさを伝えるため、日々全力で子供達と向き合っておりました。夫自身、何事にも真剣に取り組み、また最後まであきらめない人でしたので、生徒の皆さんと確かな信頼関係を結ばせて頂き、最初の教え子達とは今なお交流が続いているほどです。教員として経験を積んだ後は小学校の校長や幼稚園の園長を歴任し、定年を迎えてからも教育委員会等で精を出しておりました。得意の数学の勉強に励む中、小学校の算数の教科書編纂に携わることもでき、夫は充実感をかみしめていたことでしょう。さらには、長年の功績を認められ叙勲を受章したこととは、何にも代え難い喜びでした。私自身も生涯を通じて夫の誠実な生き方を一番近くで見守ることができ、言葉に尽くせぬ幸せをかみしめております。

夫 花村郁雄は、平成二十三年三月三十日、九十三歳にて静かに永い眠りにつきました。

和服を颯爽と着こなしていた若き日の面影、三十力国におよぶ海外旅行や趣味のお茶など二人で築いたかけがえのない思い出。在りし日の記憶は心の灯火となつて輝きを放っております。

別れの悲しみはひとしおですが、これまでご縁を結ばせて頂いた方々や教え子達からの想いを「ありがとう」の言葉に込め、旅立ちを見送ります。

花村 探 (会葬謝辞より)

楽しきは花村学級

小川 盛一 (昭和二十三年卒)

その時の先生との話しの種の一つになるだろう。僕らの血肉になっている校歌との縁はまだ続く。長年の友人とゴルフの予定などをメール連絡している時に付け加えた。

「モシヤ汝ハ福井直秋氏ヲ存ゼシヤ？」返事を見て仰天した。「我が祖父ナリ」。

先生の人となりについては、奥方様のお言葉に完璧なまでに表現し尽くされていますので、最早余地はありません。

教え子の側面から付言しますと、昭和十七年四月、私達は国民学校と改称された附属小に入学、先生がご担任でした。講堂正面で撮影した記念写真が、そ



満開の桜の元、先生の“卒寿”をお祝いする会
平成19年4月2日

の後ずっと原点的な存在になっています。時あたかも太平洋戦争の開戦直後であり、やがて熾烈さを窮める迄の二年と一学期、先生のご薫陶のもと珠玉の学校生活を送ることが出来ました。

しかし戦局は悪化の一途を辿り、十九年の夏、信州浅間に学童疎開を致しましたが、児童の分散もあり、三クラスは学年単位の縮小されました。極寒と物資の乏しい疎開生活、再疎開、終戦、やがて帰京とめまぐるしい時期を過ごしたのですが、先生は疎開して程なく療養の為に離れられる事となりました。

私達は中学高校と進み離ればなれになりましたが、時代のためかクラス会はいずれ開かれませんでした。このことは、長らく各自のトラウマ的共通意識になつていたのでしょうか。

後年、先生と遭遇再会して、空白回復とばかり、俄かに花村学級クラス会が成立しました。かつて僅かな期間を一緒に離れていった友達にも出来るだけ声を掛けて、本当によく集まりました。私達の幼い時の学校生活の話、この間数多くの病を悉く乗り越えて来られた先生の体

験談などなど、心暖まる先生ご夫妻を囲んで、それは楽しい語らいでありました。会は、傘寿、米寿、卒寿と超えて続きました。さすがの先生も、お疲れが目立ちました。

この間、気の早い五・六人の一

花村郁雄先生を偲ぶ

東 誠 (昭和二十九年卒)

私達四十五名が附小に入学し、花村先生に受け持つて頂いたのは、まだ戦後の傷跡が残っている昭和二十三年四月のことでした。初めて開かれた父兄会で、「教育については私達プロにお任せ下さい」と言われたそうで、父母達はさぞ心強く思ったことでしょう。当時、先生は三十歳と若く、体格に相応しく大らかで私達をしつかり包み込み、その後の六年間を教え導いて下さいました。

黒板に書かれる先生の字は、四角くて大きく分かり易いので、何人もの生徒が同じような字を書けるようになりました。印象的だったのは、授業中に質問の答えが間違っていると、よく冗談で「こんなことが分からないなら、お豆腐の角に頭をぶつけて死んでしまえ！」と仰つていました。いつも和やかなクラスでしたが、たしか低学年の

隊が場所の確保に先行している所に、今回先生のご到着です。私達も、もう少し後始末を終えて駆けつけますので、一つ盛大に花村学級のクラス会を開催いたしましょう。楽しきは青山も唄って。

頃、一時間目が始まっているのに、クラス中がワイワイ騒いで授業が始められず、先生は「勉強する気がないなら、授業は止めます！」と、怒って出て行かれたことがありました。教室は急に静かになり、啜り泣きも聞こえる中、皆で慌てて相談し始めたところ、真面目なS君が自発的に謝りに行ってくれたことが懐かしく思い出されます。

附小で六年間、花村先生に受け持つて頂いたのは私達クラスだけで、とても仲が良く、卒業後も「花園会」と名付けたクラス会が毎年開かれ、先生は奥様の近況報告をニコニコと聞いていらつしやいました。いささか誇らしく思うのは、先生ご自身に作詞して頂いた「花園会」の歌があることで、毎年一回皆で合唱するのは楽しいものです。

たのしいふぞく

昭和三十七年卒
川越 洪太郎

紙芝居 帰って夕飯までメンコ。これが、小学校入学前の私の「三丁目の夕日」の生活でした。

そんな生活が、附小の下馬校舎への入学で一変することになったのです。制服を着てバス通学、そして上田幸夫先生とクラスのみんなとの出会い。

昭和三十一年、私たちは下馬最後の新入生として、翌年から深沢の新校舎に移るまでの一年間を、木々に囲まれた古めかしい校舎の中で過ごすことになったのです。このため、当時の思い出は、キーワード「下馬」で検索できます。

そして、もう一つのキーワードが、歌の本『たのしいふぞく』です。先生のアコーディオンとみんなの歌声が、思い出に鮮やかな彩りを添えてくれるのです。

♪お早う皆さん ご機嫌いかが一緒に踊ろう 手を取りて

教室の外で皆が輪になり、先生の伴奏で歌い、手を叩き、初めの二人がペアになって踊りを始めます。歌が終わると、たすき掛けの手をほどいた二人は、次のペアを求めて別の子の前に立ち、歌詞のとおり三度お辞儀をしてまたスキップ、全員が終わるまでくり返します。

ところで、最初の踊り手は誰がどうやって決めるのでしょうか。「姿勢のよい平島さん！」であったり、「今朝は元氣よく挨拶できた乾くん！」であったり、先生が誰を指名なさるのか、ドキドキしながら皆は待ち構えていたのです。

「殖生の宿」と「庭の干草」

上田先生が朗読された本の中に『ピルマの堅琴』があります。その一番印象的なシーンに登場する歌です。ルーンジを着けて堅琴を弾く水島上等兵、ともに歌うイギリス兵たち。今でもこの曲を聴くたびに、その情景を、そして先生の朗読を思い出すのです。

♪ぶうぶう走る大がた小がた

「どじょうしゃ」という歌。普通の童謡だと思って歌っていましたが、「ふぞく」の中だけの歌だとは、大人になって知りました。

最後に、忘れられない歌声。深沢の新校舎に比べ、多くの樹木に囲まれていた下馬校舎。ある秋の日の昼下がり、上級生のお姉さんが皆の前で歌ってくれた歌が「風」でした。木立の前、透き通るような歌声、そ

して象徴的で空想を誘う歌詞。こうして「三丁目の夕日」の男の子は、少しものを想う少年へと成長し始めたのかもしれない。



八〇歳の記録 ―文集『傘寿』の出版―

昭和十八年卒
三枝 誠

なお、この作詞には、クラスメートのチェロ演奏家であるK君が曲を付けてくれました。私達の教育だけでなく、日本の教育界にも情熱を捧げて多大な貢献をされ、私達を六十一年以上温かく見守り、九十三歳の長寿を全うされた花村先生、本当に有難うございました。皆心から感謝しております。どうか天国で安らかに眠り下さい。

我々「青師附小18卒会」は、

二〇一〇年秋、文集『傘寿』を出版刊行しました。我々の会は昭和一八年に青山師範附属小学校を卒業した同期会です。

二〇〇三年、小学校卒業六〇周年を記念して、男子一・二組、女子組の合同クラス会を開催、この同期会を「青師附小18卒会」と名付けました。以後二〇一〇年秋までに五回の同期会を開催し、毎回約三〇人が集まって、昼食を共にしながら和やかに話し合っております。

二〇〇九年の会で、出席者が全員三分間スピーチをして、夫々の経験や近況を話しました。

その後、この時の話を基にして、二〇一〇年度に全員が八〇才になるのを期に、各人から原稿を集めて文集に纏めようという話が持ち上がりました。この年齢でどれだけの記事が集まるだろうかという心配もありましたが、スタートしてみると、四十二名の方から原稿が寄せられ、文集の名前も八〇才にちなんで「傘寿」と名付けられました。また、在学中やその後のクラス会の貴重な懐かしい写真が数多く寄せられ、これらを編集して、A4版一〇八頁の色鮮やかな立派な文集が出来上がりました。話題は小学校時代の生活をはじめ、戦中戦後の体験、職業、趣味、旅行、居住地、出会いなど多岐に亘っています。

我々は戦時中の小学生、中学生であり、昭和二〇年代のまだ戦後と云われた時代に社会に入り、戦後の日本の復興に尽力してきました。今回の文集で多く語られている、戦中戦後の苦しかった生活、空襲、学徒動員、疎開、終戦などの経験は、我々世代の共有する体験であり、今の若い人達は勿論、所謂団塊の世代の人達にも知っていただきたいものです。

*「傘寿」を購入することができます。「編集後記」をご覧ください。



「花園会」50周年記念の会にて
平成16年11月

平成22年度(平成22年4月1日～平成23年3月31日) 青山附属同窓会 会計報告

1、同窓会基金(単位:円)

収入	金額	支出	金額	残高
前年度より繰越	3,289,195			
銀行利息 三菱UFJ信託銀行定期預金	5,200			
三菱UFJ信託銀行普通預金	11			
合計	3,294,406		0	3,294,406

2、経常会計(単位:円)

収入	金額	支出	金額
前年度より繰越	9,763,505	藤棚印刷費	256,835
		名簿印刷費	0
新卒者入会金(115名)	1,150,000	新卒生名簿印刷費	65,520
会費356名(ゆうちょ銀行振替口座)	1,780,000	回線使用料	63,575
		データ管理費	165,060
銀行利息:三井住友銀行 定期預金	1,446	事務手数料	102,000
三井住友銀行 普通預金	304	藤棚発送費	333,700
		名簿発送費	142,875
		通信費	43,860
寄付金	102,000	事務用品費	6,436
本年度収入合計	3,033,750	備品・修理費	6,420
		慶弔費	3,150
		交際費	8,380
		支払手数料	44,585
		交通費	1,200
		消耗品費	0
		会議費	26,277
		寄付金	0
		会費返金	0
		本年度支出計	1,269,873
		次年度へ繰越	11,527,382
合計	12,797,255	合計	12,797,255

3、資産の部(単位:円)

明細	金額
同窓会基金分	
三菱UFJ信託銀行定期預金	3,250,000
三菱UFJ信託銀行普通預金	44,406
合計	3,294,406
経常会計分	
三井住友銀行 通知預金	1,500,000
三井住友銀行 定期預金	3,019,479
三井住友銀行 普通預金	1,462,110
ゆうちょ銀行 総合口座	3,475,326
ゆうちょ銀行 振替口座	1,975,720
ゆうちょ銀行 振替口座(懇親会)	90,140
現金	4,607
合計	11,527,382
合計(基金+経常会計)	14,821,788

会計:野口 貞義、瓶子 可南子 監事:清水 嘉男、吉原 重和

監査報告:帳簿類、会計報告書を監査の結果、適正であることを認めます。 監事:清水 嘉男 ⊕ 吉原 重和 ⊕

◆ 本年度の同窓会役員

- 会長 平井 聖(昭和十七年)
- 幹事長 森 昭彦(〃三〇年)
- 会計監事 清水嘉男(〃二〇年)
- 吉原重和(〃三五年)
- 福西武子(〃二〇年)
- 野口貞義(〃二三年)
- 小野聖穂(〃二九年)
- 平山昭男(〃三一年)
- 福田恒夫(〃三一年)
- 古川一郎(〃三一年)
- 幣原 廣(〃三七年)
- 飯田恵子(〃三九年)
- 木下智子(〃四〇年)
- 長岡寿昭(〃四一年)
- 浅尾博之(〃四五年)
- 福本彩子(〃四七年)
- 斉藤研一(〃四四年)
- 野口尚志(〃六三年)
- 松本洋典(平成八年)
- 瓶子可南子(〃八年)

青山附属同窓会ホームページ
<http://www.u-sakuragi.ac.jp/doso/>
 「青山附属同窓会」で検索できます。

編集後記

◇震災による深沢校舎の被害はとくになかったものの、「卒業の会」(卒業式)は内容を変更して実施。また千倉・青山荘も無事だったので、目の前の海岸には津波が押し寄せ、今夏の臨海学校は中止とせざるを得なかったとのこと。今回の震災は、我が校の児童たちからも、貴重な機会・体験を奪うこととなりました。

◇花村郁雄先生(一九四〇～六四年在職)が、平成二三年三月に逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。本号では、花村先生の追悼文が寄せられましたので、掲載いたしました。◇七頁に記事を掲載しました昭和一八年卒業生による文集『傘寿』。若干の残部があり、希望者には五五〇〇円にて頒布していただけることになりました。〒260-0003 千葉市中央区鶴沢町一―一四 三枝誠様までハガキで御申し込み下さい。(編集者・斉藤)